

## 移築された横穴式石室

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



### ① 大枝山14号墳 西京区御陵大枝山

大枝山古墳群は1980年から87年にかけて調査された。そのうちの14号墳は残存状態が良好であったため、東端の公園予定地に当初の姿そのままに復元された。写真は1987年に移築が完成した当時のもので、墳丘前面の葺石も元位置に置かれている。左上は天井石を乗せた段階のもの。

発掘調査が終了すると遺構はなくなるのが普通です。しかし群集墳の主体部である横穴式石室では、現地保存がかなわなかった場合の次善策として、別地点に移築し復元する方法がとられてきました。京都市内ではこのような横穴式石室の移築例が数箇所あります。これらは移築されたものであっても、ほぼ元通りに造られているため、古墳を追体験する大切な場であることに変わりありません。

天井石まで残されていた大枝山14号墳と御堂ヶ池1号墳の場合、

石材はクレーン車で元どおりに積み上げて復元されましたが、古墳が造られた当時はすべて人力作業でした。その方法ですが、石材を積み上げるごとに背後に緩い傾斜面を作り、その上を修羅（ソリの一種）などで石材を引き上げたと考えられます。上段ほど傾斜がきつくなるので、背後の斜面も裾を長くとったことでしょう。天井石を乗せる段階になると、石室をいったん土で密封し、全体を大きな土饅頭まんじゅうにしておいてから石材を運び上げ、最後に石室内の土を掻き出

して完成させたと推定されます。

大枝山14号墳の移築古墳は1987年に完成した後、長く放置されてきました。しかし、2011年になって地元「桂坂古墳の森保存会」が結成され、古墳群全体の維持・管理・公開などを手掛けるようになってきました。史跡大枝山古墳群は、地域の方々の努力によって、住宅地に息づいた歴史資産として新たに生まれ変わりつつあります。

(丸川義広)

※この号は京都市文化財ボックス26『平安京以前』を参照して作成しました。



② 下西代2号墳 西京区大原野南春日町

1990年7・8月に調査された。内部に小規模な石組をもつ特異な横穴式石室で、1993年に南へ約100mの現地に移築された。入口と奥壁後部の石材は移築時に置かれたものである。



③ 灰方古墳群 西京区大原野灰方町

1996年6月に1・4号墳が調査された。石室は大原野小学校の校庭に移築されたが、右壁は4号墳の石材、その他は1号墳の石材が使用されている。



④ 御堂ヶ池1号墳 右京区梅ヶ畑向ノ地町

1983年2月に調査された。古墳は元の場所から南へ約900mの通称さざれ石山の尾根筋に移築された。1号墳は古墳群中最大の古墳で、15トンに達する巨石が使用されている。



⑤ 常盤東ノ町1号墳 右京区常盤東ノ町

1976年10～12月に調査された。石室は敷地の北西隅に移築され、基底の石材が2段ほどと、玄室内には棺台とみられる2列の石材も復元された。この石室はすでに撤去されている。



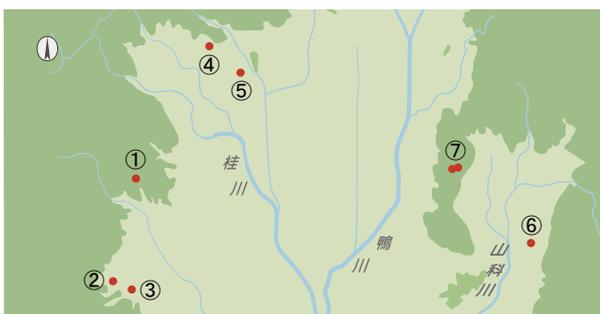
⑥ 醍醐16号墳 伏見区醍醐内ヶ井戸

醍醐古墳群は1979・83・86年に調査され、16号墳の石室は2009年に移築された。入口を石で閉塞した小石室は、規模が大きいため、横穴式石室から小石室に移行する貴重な例といえる。



⑦ 旭山E-9号墳(上)・E-6号墳(下) 山科区上山旭山町

旭山古墳群は1977・78年に調査され、1981年に中央斎場の北西隅に2基が移築された。小型横穴式石室であるE-9号墳は石材を積み直し、小石室であるE-6号墳は遺構を切り取って移築したものである。



移築石室の位置図